

PRO WINDSURFER Kuragano Takumi

活動レポート
2025年12月～2026年1月



© CARTER / PWRWORLDTOUR.COM



ロス五輪を目指すウィンドサーファー倉鹿野巧です！
2025年12月～2026年1月の活動をご報告します

<2ヶ月間の活動内容>

- ・IQFOILシーズンオフに突入！
(トレーニングは変わらず継続中)

- ・JWA FOIL SLALOM PRO TOUR 第3戦 葉山大会

12月からしばらくの間、オリンピック競技はシーズンオフに入り、通常のトレーニング期間となります。シーズンオフとはいえ、練習頻度やウェイトトレーニングは減らしたりはしません。ただ、大会がない分、精神的なストレスは軽減され、リラックスしながらウィンドサーフィンを楽しむことを意識した練習を行っていきます。

競技における課題は簡単に解決できるものではなく、モチベーションが下がってしまうこともあります。そういうときは、あえて別の道具に乗り、気分をリフレッシュします。



・シーズンオフに突入！

12月に入り、オリンピック競技のIQFOILは世界的にオフシーズンに入ります。ヨーロッパの冬は非常に寒いので大会は開催されません。各選手は、あったかい地域に移動し、トレーニングとリフレッシュ期間に入ります。IQFOIL以外のウィンドサーフィンを楽しんだり、サーフィンを楽しんだり、様々です。

なので、私もIQFOILではない、普段とは違うウィンドサーフィン『フィンスラローム』に乗ってリフレッシュしてきました！



・フィンスラローム

普段乗っているIQFOILとフィンスラロームの大きな違いは、ボードの下に取り付けられている部品です。

IQFOILでは「フォイル」と呼ばれる水中翼が付いた道具に乗っていますが、フィンスラロームにはフォイルがなく、サーフィンと同じようなフィンが付いています。

そのため水面から浮き上がることはなく、水面を滑走して進んでいく、従来のウィンドサーフィンです。

これが、多くの方がイメージするウィンドサーフィンだと思います。

フォイルの世界最高記録が70kmほどなのに対して、フィンは100km超えと、ハイスピードを出すことが出来る道具です。



練習映像

<https://drive.google.com/file/d/1IabZyZh6g0PO0UHQpvzm5GOTzJSLj4W/view?usp=drivesdk>

<https://drive.google.com/file/d/1R7aOpuNku-vxUdCOvCXXA8t4io7XdLoU/view?usp=drivesdk>

・JWA FOIL SLALOM PRO TOUR 第3戦 葉山大会

この大会は、オリンピック競技とは別カテゴリーです。
ワールドツアーが行われるプロの世界のカテゴリーで、11月に日本で開催されたワールドカップ
では、総合21位日本人2位の好成績でしたので、この大会は優勝を目標に出場しました。

このFOIL SLALOM(フォイルスラローム)というカテゴリーは、短期決戦、スプリントレース
1レース4分ほどで終わるレースで、スピード勝負。
初めて見る方でもわかりやすいのが特徴です。
最高スピードは65km/hを超えます

なぜオリンピックとは違うこのカテゴリーに出るのか。
それは、ハイスピードに慣れるためです。
オリンピックのIQFOILと、非常に似ている道具ですが、性能がかなり違います。
よりハイスピードで、より繊細な道具に乗ることで、
IQFOILに乗った際に、恐怖心を感じなくなります。
また、ハイスピードレースでは、より、速い判断が求められるので、そのトレーニングにもなります。



日本国旗付きが僕です





・決勝スタート

予選ヒートを勝ち上がった上位12名で行われる決勝。手前にある赤いブイと、上に見える白い船を結んだラインがスタートライン。選手は、決められた時間に合わせてスタートします。フライングは一発アウト。出遅れても勝ち目がないので、目に見えないスタートラインを、タイマーを見ながら感覚でタイミングを合わせます。

・1stマーク回航

オレンジ色のマークが回航ポイント。
選手はこれを方向転換のジャイブという技術で回っていきます。
競艇のように、INをついたり、OUTからスピードで捲ったり、レースの順位が変化する重要ポイントです。

この回航マークを3つ回り、フィニッシュラインを目指します。
1stマークでは、僕は4位に付けました。スタートを混戦していた場所から出てしまったのが影響して出遅れました。





・2ndマークに向けて

1stで4位でしたが、ここでスピードで1人追い越し、3位に浮上。

ウィンドサーフィンは風を使うスポーツ。相手を、自分の風下に置くことによって相手の風を奪い、スピードダウンさせることができます。

・2ndマーク回航

そのまま3位をキープ。回航動作もうまく決まり、2位との差を少し縮めることに成功しました。

こういったレースは、1位は相手と競ることが少ないので、どんどん離れていく特徴があります。ファーストマークで出遅れたのは非常に痛いです。



①



②

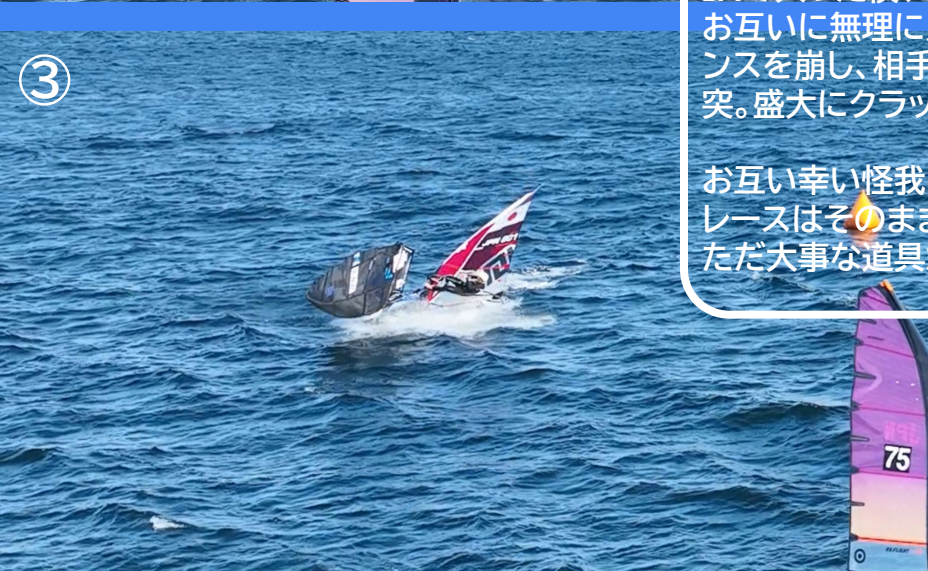


3rdマーク

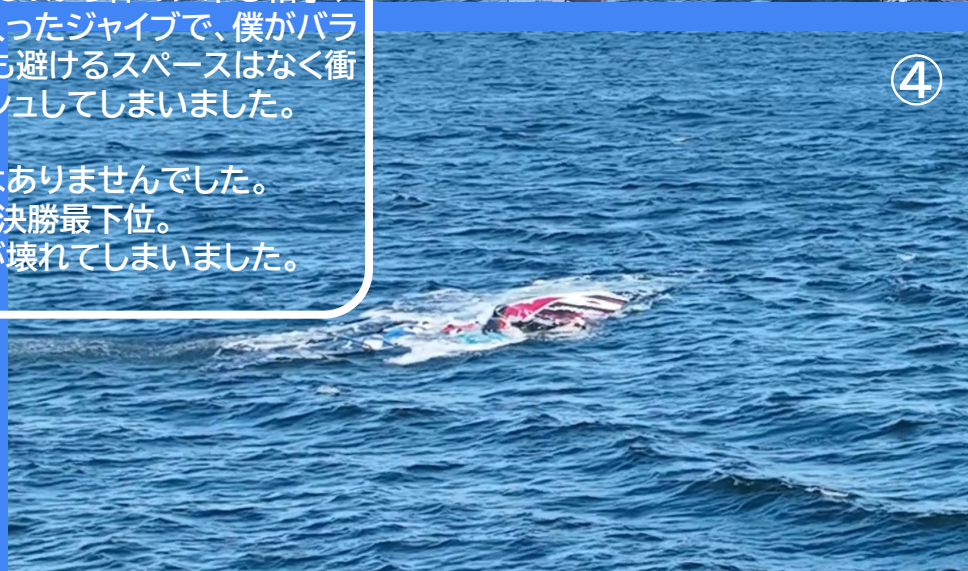
事件はここで起きました。
表彰台をかけた3位争い。ここが最後のマークで、ここで抑えるしかない僕と、捲るしかない相手に気合いのジャイブ勝負。
INに入った僕、OUTから締めに来る相手、お互いに無理に入ったジャイブで、僕がバランスを崩し、相手も避けるスペースはなく衝突。盛大にクラッシュしてしまいました。

お互い幸い怪我はありませんでした。
レースはそのまま決勝最下位。
ただ大事な道具が壊れてしまいました。

③



④



https://drive.google.com/file/d/1IF46hQVUusl9yoZz9JBkQ7IUzmzIMCUIYZ/view?usp=drive_sdk

プロメNZ 決勝, レースフル映像

このリンクからクラッシュの瞬間見られます

・レースを終えて
今シーズン、FOILスラロームというカテゴリーでかなり成長できたと感じています。
来年は、しっかり優勝争いに絡めるスピードがあるはずです。

ただ、今回のようなクラッシュやスタートの位置どりなど、まだ詰めきれていない部分もはっきり見えました。
そこをしっかりと振り返って、対策して、
2026シーズンに向けてさらに磨いていきます。

もっと圧倒的に速く！

最後までご覧いただきありがとうございます

2026年は、ロスオリンピックに向けて高い成長が
求められる大事な1年になります。
海外レースでの経験を増やし、世界のトップレベルの
技術を目指して取り組んでいきます。

今年もよろしくお願いします！

JPN801 倉鹿野巧

